

B-23 おむつ・おむつかバーについてのアンケート調査

明和女子短大 ○田部井つね子 青木瑞恵

目的 最近のおむつかぶれの様相は従来と非常に異なっている。そこでその原因を
うかがう一端として、おむつ・おむつかバーの最近の使用状況、かぶれについてアン
ケート調査を行った。

方法 A、明和学園の教職員、学生、生徒、幼稚園の協力を得て、7月初旬～9月
下旬にかけて行った。B、調査母集団 前橋市を中心とした市町村の19才～42才の母
親を対象に0才～満2才の乳幼児を調査した。C、集計方法 パンチカードで整理し
た。

結果 ①乳幼児のアレルギー疾患は同一家系内にアレルギー疾患者のいる場合起こ
し易い。②おむつは完脱の晒布がよい。③排便後の処置については、アンモニア生成
菌による皮膚炎、消毒剤による菌交代現象についても考慮しなければならない。④洗
濯は手洗いのふり洗いがよい。⑤柔軟加工剤は、従来アンモニア生成菌によるかぶ
れ、ただれに対しては有効であろうと考えられるが、カンジダ菌に対しては逆の結果
が考えられる。両系を整理してから考慮したい。⑥雨の日のおむつは熱処理が効果的
であつた。⑦かぶれ・ただれの最も多い夏は、高温や発汗、交換時パウダーの使用な
どのためカンジダ菌の誘因も考えられた。⑧普通石ケンより乳幼児浴用石ケンによる
かぶれについては、添加剤による刺激が誘因であろうと推測された。⑨かぶれ・ただ
れの部位は男女児の性別により異なり、今後おむつの畳み方については再検討し、当
て方などについても研究する必要がある。